



ブリジン

Bridgin'

2005
PART 1

コミュニティづくりのために、人と人、グループとグループ、地域と地域、これらが橋渡しされること「ブリジ」されることで、新しい価値観を見いだし創っていくこと、これが現代のソーシャルキャピタルです。

ボランティア・NPO情報誌

ブリジ (Bridgin)
Bridge:橋を架ける
困難を克服する
Bridging-Bridgin (進行形)



15回続いたこけしの里マラソン



ブリジン登場

佐藤 覚治さん(黒石市)

黒石市山形地区を全国区へ

佐藤覚治さん(68)は、住民参加地域づくり活動、いわゆるコミュニティ運動の先駆者のお一人です。

一地域に、一学校・一公民館・一協議会という理念を立ち上げ、昭和46年にして、黒石市西部地区が自治省のモデルコミュニティに指定され、県の「あすなる住民賞」、国の「あすの地域社会を築く住民活動賞」を受賞。それを、きっかけに、こけし史料館建設運動を起こし、津軽こけし館をオープンさせ、現在は浅瀬石川整備・河川公園の建設に、と着々と歩みを進められています。一步一步しっかりと地に足を着け、地道な活動と豊かなアイデアによって、地域の発展と充実に力を尽くされてきたことが、その穏やかな笑顔と、語り口にみとれます。

夜宮の廃止運動でスタート
青年団の生活改善運動からスタートし、昭和38年当時、若い妻たちの負担になっていた、神社の夜宮の廃止運動を、新しく“演劇”というスタイルで、人々に広く知らしめ、賛同を得られたことが、広域の結束の、大切さを理解したことの、ひとつ。



その後、地元、山形地区の問題をさぐり、子供たち自身が調査した上での、通学路の安全確保、小体育館を持つ公民館の設置、上下水道の整備といった、住む人々が本当に必要とするものを、行政からの援助と、住民自身の努力とで、次々に達成していきました。本来あるべき、パートナーシップの姿といえます。

もともと集落としてのまとまりは、地区水道の自主管理など、結束力が強かったことも幸いして、仲間の理解を得られやすかったと佐藤さんはおっしゃいますが、やはりリーダーとしての佐藤さんの、地域への暖かな思いと、良い環境を少しでも次世代に残したいという気持ちが、自然に人を動かす原動力になっているのでしょう。



山形公民館前の雑木林



新築なった温湯温泉共同浴場

津軽こけし館の建設へ

昭和63年に完成した津軽こけし館建設に至る佐藤さんのコミュニティ活動が、まさしく氏の真骨頂。こけし工人で名人といわれた盛秀太郎の存在をきっかけに、建設運動の会員それぞれが会費を持ち寄りこけし収集の旅に出、同時に、地域公民館の庭を憩いの場にしようと、雑木の植樹を行うなど、中身だけでなく、環境を整える重要性にも目を向ける視点の広さ。「人は資材。まさに人材です。」とおっしゃいます。そして今、植樹した木々が大きく育ち、「その中で飲むビールが最高です」と。木々が大きく育っていくように、しっかりした基盤の上に成り立った運動は、地域とともに発展していくもの、これが地域活動を支える原点なのだ。昭和58年に始まり、15回を数えて終わってしまったイベント、「こけしの里マラソン大会」なども、最初は地元の参加者200人程度の規模から、全国各地から1000人余の参加者が集うようになっていました。

常に、新しい課題を見つけ、それに前向きに取り組んでいくことこそが大切なことではないでしょうか。

温湯温泉のステップアップ

温湯・山形地区への思い入れは、この

温湯温泉を抜きにしては語れません。共同浴場を新設するに当たり、佐藤さんは、建設会議に女性の参画を進め、自主運営を安定させるために法人登記させるなど、より深い地域とのかかわりを求めた提案をしています。入浴第1号は地元の小学生に。出来たばかりの温泉浴場に初めての入浴、という経験は、子供たちの誇らしい思い出となり、ひいては地域への愛情として育っていくであろうというもの、氏の思い入れでした。入浴料は、200円以下に設定するなど、話題性と地域住民へのサービスに徹底した姿勢が氏の生き方そのものに見えます。

そして今、黒石温泉郷を活性化すべく、浅瀬石川の河川整備に取り組んでいます。河川公園の中州を利用して水質検査や自然観察など、学校のワークショップに活用したり、又歴史を学んだり。アートを楽しめるような環境作りとして、尾上町在住の画家・山谷芳弘氏に依頼し、ふるさとの風景を描いてもらい、その陶板をレリーフとして、壁面に埋め込む計画を立てているなど、次世代へ託す思いは無尽蔵の佐藤さんです。常に前向きに、にこやかな笑みと、確固たる意思と、人との結びつきの大事さをつたえながら……



インタビューからひとこと 藤井一江 (ANPOS)
何気ない会話の、1つ1つ。穏やかな笑顔の中に、たくさんのアイデアと、地域への愛情。次世代に何を残すかという、しっかりとしたスタンスを持つ大切さ、積み

重ねていくことの必要性。これからの、コミュニティ運動への指針が、込められていたように、思える。いつも身近な矛盾、問題と向き合っていていかに住みよい暮らしができるか考え続けていきたいと、おもっ。

特集

コミュニティビジネスの 繁成記

「地域を元気にしたい」
「こんなビジネスが地域にあればいいな」
「地域の良さをもっと知ってもらいたい」

地域の資源を活かしながら地域の課題の解決を「ビジネス」の手法で取り組むコミュニティビジネス。いま、コミュニティビジネスは全国で、NPO等様々な主体が取り組んでいます。

青森県内ではどのような人たちがコミュニティビジネスに取り組んでいるのでしょうか？

平成16年度に青森県よりコミュニティビジネススタートアップ助成事業に選ばれた事業者の活動を紹介します。

県内のコミュニティビジネスの実情をルポ



『遊休農地』
もともとは耕作されていたが、過去一年間作付けされていない農地をいいます。

『こぎん刺し』
藍で染めた麻布に白い糸で刺繍を施したものです。



あおもり藍工房

青森市石江字三好135 (株) アプティマルワ内 TEL 017-766-0188

藍染めを青森市の街おこしに！
特産品を生み出せ



藍葉から藍染染料を簡単に製造できる方法を特許出願している県人の指導の下、愛好者が藍染を行うようになったことをきっかけに、藍の栽培から染料の製造、製品の製作と販売まで地域で一貫して取り組んでいる【あおもり藍工房】



藍の栽培は地域の遊休農地等を活用、青森発の藍染め製品を開発し、さらには「こぎん刺し」にも生かしたいと考えています。また、多くの人たちに藍染めの楽しさ、すばらしさを知ってもらうために、青森市のふれあい農園を拠点として「藍染め講習会」等も行い、藍染め文化を地元伝える取り組みをしています。

全国で売られている藍染め製品のほとんどが徳島産であり、販路の確立と販売促進が課題です。

将来的には、染料の製造・販売や、お茶や入浴剤の開発など、様々な分野への展開を目指しています。環境への負荷の少ない天然染料を用いることで、新たな青森県の『特産物』を生み出し定着させ、地域経済の活性化、雇用促進にも貢献したいと考えています。

また、小学生への課外授業として、藍染め実習や藍栽培、藍染め染料の製造などを体験させるなど、学校との協働を視野に入れた活動も計画しています。

『DV（ドメスティックバイオレンス）』
夫や恋人など親密な関係にある、又はあった男性から女性に対する暴力。また、親子間の暴力等も含めた意味で使っている場合もあります。



NPO法人 ウイメンズネット青森

青森市古川1-16-7 のむらビル2階 TEL 017-743-0797

女性の自立支援のために
地域活性化応援隊 キャリエール



「キャリエール」は、DV（ドメスティックバイオレンス）の被害者支援に取り組むウイメンズネット青森が新たに始めた女性のための自立支援事業です。

DV被害者女性が自立した生活ビジョンを築き、社会に復帰できるように、「働く場」の提供をめざしていきます。

具体的には、県内の個人及び団体、事業所等、日ごろ



の業務や催事の人手不足、専門的な業務で困っている方たちに労働力を提供します。被害者女性にとっては、仕事の場を得ることで、自らの本来持つ能力の開発にも役に立ち、依頼する側、受託する側の両方に利益のある活動です。

DV支援活動は財政的にも厳しいことが課題です。ウイメンズネット青森では、キャリエール事業による仕事の掘り起こしを図りながら、若者向けのセルフディフェンス・コミュニケーションスキルアップ教室を、県内中学校・高校・大学で実施し、DV被害者も加害者も作らない社会を目指し、DV問題への理解を高める活動を行っています。



ふれ～ふれ～ファミリー

弘前市土手町178-5 TEL 0172-32-3099

地域密着であなたの生活を
サポートをします！



ちょっと困っている人を助けたい。少しでもならお手伝いできる。そういった人たちをマッチングさせてあげたいという思いから誕生したのが「ふれ～ふれ～ファミリー」です。

都合があって午前中は働けないお母さん、週に3日ならお手伝いできるお母さん、ちょっとアルバイトしたいお母さんなど、お互いに利用して自分の時間を充実させてほしいという願いから、この事業が生まれました。

利用したい人、活動したい人ともに事務局に登録をします。登録料は無料。サポートの内容は、ベビーシッター、産前産後のケア、シルバーケア、一時保育やイベント保育、犬のお散歩、子供の送り迎え等があります。

当面、活動したい人のスキルアップやフォローが課題。共感する女性たちの活躍の場をお互いが創り出し、活気あふれる地域づくりを目指しています。今後は様々な講座を通じて活動の周知を図りながら、地域の病院や商店にも利用を呼び掛けることにしています。



www.f-f-j.net

青森県コミュニティビジネススタートアップ助成事業
ふれ～ふれ～ファミリー

コミュニティビジネスの未来

特定非営利活動法人
いわてNPOセンター理事長
高井 昭平



NPOとコミュニティービジネス（以後CB）。これは切っても切れない関係にあります。特に法人格を持つNPOには持続可能な組織運営が期待され、社会的な義務も生じています。その為、NPO法人の運営には収益基盤の構築が必要不可欠です。そこで登場するのが、CB。経済産業省関東経済局の定義によれば、「CBとは、地域住民が主体となって地域の課題をビジネス手法で解決し、その活動の利益を事業への再投資によりコミュニティーに還元することによって、コミュニティーを再生するビジネスである。」とあります。まさに、CBは、地域再生の手法であり、NPOはそれを形にする道具といえます。

さて、手法と道具を手に入れた皆さん、次はCBに取組む心構えについて考えてみましょう。CBの本質は、「単に“私の”所有欲や事業欲を満たすものではなく、“私達の”幸せや地域の豊かさを実現させる手法」にあります。ここで言う“私達の”とは、公的視点を持つ＝市民意識の醸成のことを指します。この意識なくては、たとえどんなにビジネスノウハウに長けていたとしても、CBとしての成功は望めません。同様に、自己雇用を目的のCBを立ち上げても、失敗すると思います。ビジネスの向こうに、地域への想いや、多くの方々への想いが見えないからです。寄って立つ所の価値観が違うことを理解しなければなりません。

ここまで来れば、あとは、アクション、行動ある

のみ。しかし目標を定めなければなりません。最初は、それぞれのできる範囲内で設定すればよいでしょう。次はそのもう少し上。自分達がイメージできる範囲までとします。こんな感じで、目標設定しながら、自分の生き方や家族を犠牲にした仕事や会社から自己を開放し、仕事が自分の生活に密着し、生き方を反映したものになるまで続けていきます。結果、地域は持続可能な経済システムを持ち、自立し、中央の隷属的な支配から解放されていくこととなります。

今回の時代の変革は、技術革新を伴うものではありません。あくまでも人間の意識の拡大により可能なものです。個人が変われば、社会が変わる。未来の鍵はみんなの手の中にあります。小さな変革の風を集め、時代を変革しましょう。まずは、目の前にある古いシステム（制度）とカスタム（習慣）と向き合い、対話しましょう。考えているだけでは、何の変化も起こりません。さあ、一步を踏み出してください。貴方の一步が時代を変革する一步です。

私自身、2年前にNPOで起業家を養成するための講座、「NPO起業家養成講座」を開催し、昨年までに79名の卒業生を送り出し、内34名（43%）が、起業もしくは起業予定、33名（41%）を就職させました。昨年6月21日には、いわてグリーン・ツーリズムサポートセンターを開設し、地域の資源を生かした産業創造に取り組んでいます。今年は、コミュニティビジネスを支援するためのコミュニティバンクを創設し、コミュニティビジネスの支援を資金面で行っていく予定です。

ウエルカム



あおもりコミュニティビジネスサポートセンター（NPO推進青森会議）
事務局長 小笠原秀樹

平成16年度より青森県の委託でコミュニティビジネスサポートセンターを開設し、普及啓発や相談業務等を行っています。同年度には青森県内の地域密着型の事業に取り組んでいる団体や事業所を対象に実態調査も行いました。

そこで見てきたのは、組織の特徴を反映した課題でした。NPO法人や企業組合は「資金繰り」「人材不足」、株式会社や有限会社は「利益率の減少」

コミュニティビジネスの「コミュニティ」は、地域の課題解決や再生等のいわゆる地域貢献の意味であり、「ビジネス」は事業性や利益志向の意味が強くなります。

NPOの多くは地域に根ざした活動をしているものの、ビジネスセンスは弱い。一方で営利企業は、利潤への意識が強くなります。それらを裏付ける結果です。

「コミュニティ」と「ビジネス」の両立。これが、まさにコミュニティビジネスです。その可能性は、どの組織形態にもあります。サポートセンターでは、マネジメント支援や事業者同士の交流、ネットワーク作りにも取り組んでいます。どうぞ、ご相談ください。

あおもりコミュニティビジネスサポートセンター
〒030-0862 青森市古川1-16-7 のむらビル2階
TEL 017-774-5598 FAX 017-774-5596

【開設時間】平日・午前10時～午後6時（祝祭日、年末年始を除く。）

『コミュニティ放送』

平成4年に当時の郵政省（現総務省）が放送法施行規則を改正して設けられた制度で、きめ細かい地域情報に対応し、「コミュニティFM」とも呼ばれています。市町村域が放送エリアで、全国で170局超、青森県でも4局が放送しています。

『環境立市』

将来の市民に海・山・川といった豊かな自然環境を継承し、かつ、環境負荷の低減と経済的発展が両立した持続可能な社会を構築するために、本市の産学官民が一体となって取り組み、環境先進都市を目指すことです。



市民+企業+行政パートナーシップ事業 1



ラジオ番組「Be-Earth Friendly」(八戸市)

NPO法人クロス+ビーエフエム+八戸市

平成17年5月5日から、NPO法人循環型社会創造ネットワーク（通称CROSS）はラジオ番組を企画、八戸市の**コミュニティ放送**ビーエフエムを通じて放送を始めました。タイトルは、「未来への贈り物 ビー・アース・フレンドリー（Be-Earth Friendly）」。放送は、毎週木曜日午後12時40分から15分間です。

内容は、八戸市の「**環境立市**」プランの策定や同宣言の趣旨、八戸地域の環境や新エネルギーの取り組みを市民に紹介するもので、テーマに沿ったゲストとのトークを中心に、家庭でできる省エネルギーの取り組みなども交えて構成しています。5～6月の放送では、八戸市の中村寿文市長をはじめ、市職員がゲスト出演し、進行役のNPO法人CROSS福田昭良専務理事とともに、環境・新エネルギーをわかりやすく伝えています。

八戸市の取り組みを単に伝えるのではなく、NPOが間に入り、番組を通じて市民との橋渡しをする。番組の切り口は「市の取り組みを市民の目線で伝える」

こと。この取り組みは、行政、NPO、そして民間企業であるコミュニティ放送の三者によるパートナーシップ事業と言えるでしょう。

なお、この番組は平成18年3月までの放送で、今後は地球温暖化防止の取り組みや八戸地域の環境に取り組む企業・学校等市民の活動を紹介する予定です。



私の パートナーシップ論

NPO法人から

番組には、お金を出して支援していただいているスポンサーがあります。当然、スポンサーとの連携も考えていかなければならないと思います。協賛して良かったと思えるよう、メリットを感じるものを作りたい。放送に出ない裏のつながり、コミュニケーションを大切にしなければならぬ。その実感を作り、互いに共有できればいいと思います。

NPO法人CROSS専務理事 福田昭良さん



行政から

番組のゲストで出演しての感想ですが、福田さんがうまく話を引き出してくれました。市の広報誌などで環境や新エネルギーのことを市民に直接伝えるのと違って、間にNPOが入ることで、わかりやすくうまく変換して市民に伝えていていると思います。NPOは行政と民間とを結ぶ役割をして期待しています。

八戸市企画部政策推進室 新エネルギー推進グループ 主任技査 島山智さん



企業から

CROSSは、官の要素と民の要素があるNPOなので、そのような人たちが入って番組を作ると市民にもわかりやすいと思います。ビーエフエムの目指すところはまちづくりで、放送は手段の一つ。NPOも目標が一緒なので違和感はないです。

株式会社ビーエフエム パーソナリティ 椋内有希子さん



『エコスクール』
環境問題を解決するため実践的に学び、正しい見方と知識を身につけること。青森県庁でも、参加体験型の環境学習機会を提供するためエコスクールを開催しています。



市民+行政パートナーシップ事業2



下北・津軽海峡エコフェスティバル(佐井村)

NPO法人ゆいっこクラブ+青森県

仏ヶ浦や願掛岩など、大自然が造る美とその異形に驚嘆する人も多いという佐井村の海岸線。しかし、この海に多様な廃棄物やゴミが漂い、海岸を汚染しているのが現状です。

自然環境の大切さを感じてもらいたい、それには直接現場に触れるが一番!と、2004年10月9~10日、[下北・津軽海峡エコフェスティバル]が開催されました。これは、県が継続している「エコスクール」の平成16年度版の事業です。

事業委託されたのは、下北を中心に自然環境の保持・保全・再生のための活動をしているNPO法人「ゆいっこクラブ」です。



1日目は、アルサス(津軽海峡文化館)で、海流発電などを研究している弘前大学理工学部・南條宏肇教授や、「ひろさき環境パートナーシップ21」の土岐泰さんによる講演からスタート。自然環境への問題意識を高め、海の力と魅力をうったえかけました。同所でのウェルカムパーティーでマグロなど下北のおいしい海の幸を堪能しました。

2日目は、参加者全員で願掛岩近くの公園、海岸、河川、道路の清掃をしました。この日は台風直撃の雨のなかの作業となり、参加者は大苦戦。しかし、環境を元に戻すことの大変さを実感し、有意義な活動となりました。最後は、ゆいっこクラブが管理している河川公園で、イワナの放流を実施。山、川、海の自然の豊かさを祈念して全日程を終えました。

「ゆいっこクラブ」理事長の千葉悦治さんは、「これからは、子どもたちへの環境教育が重要と考えています。恵まれた自然は、あたり前ではなく守っていくべきもの。体を動かすことでそれを感じてもらい自分から行動する意識を啓蒙しよう」と、活動を続けています。

私の パートナーシップ論

NPO法人から

パートナーシップは、下から上にわきあがるものであってほしいと思います。行政が「報告」するための事業としてあれこれ詰め込んで形を作るのではなく、民間やNPOがやってきたことに対して「協力」するのが理想。例えば、本当はお金がかかることをNPOがボランティアでしている。でもお金がないからできないこともある。そういうところをフォローしていくのが行政の役目ではないでしょうか。結果ではなくて、いかに現場が、NPOがやりたいと思っているかが大切。ミッションとは、そういうものだと思います。

ゆいっこクラブ
理事長 千葉悦治さん



行政から

この事業は、県民の皆さんが環境の現状を見て、聞いて、触れることで環境活動のきっかけになればという思いで開催しました。環境活動団体と協働しノウハウや情報を持ち寄ることで、行政だけでは成し得ない成果が得られたと思います。本来、パートナーシップとは、困難な状況の時にこそ解決に向けて本音で意見を出し合い、支えあう関係だと考えています。これからは、市民と行政は立場も考え方も違うと思いますが、違うからこそ補い合っ、お互いを知り、理解し合いながら顔の見える信頼関係の環を広げていきたいと思っています。

青森県環境政策課
計画・管理グループ
主査 岡村慶子さん





「ふるさとづくり賞」の伝統を受け継ぐ カマラードの家 【五戸町倉石】



五戸町倉石地区は、昭和45年、「あすの地域社会を築く住民活動賞」を受けた全国的にもコミュニティ意識の高い地域です。

「カマラードの家」は、同地区で竹洞雍子代表をはじめとする農家の“かっちゃん”達が頑張っている住民組織。設立は平成8年で、現在会員6名で活動しています。

主に五戸町の地場農産物を使い、健康・安全をモットーに手作りにこだわるのが売りで、現在15種類ほどの商品を加工・販売しています。なかでも「にんにくボール」

「アップルパイ」は人気があり、特に「にんにくボール」は、「第6回食アメリティコンテスト国土庁長官賞」を受賞。血糖効果作用、動脈硬化予防などの効用があり、米粒大の大きさにビタミン、ミネラル、そして竹洞さん達の愛情がギュッと詰まった商品です。

「カマラードの家」の始まりは、平成2年にさかのぼります。五戸町（当時、倉石村）では市場に出荷できない、いわゆる「ハンパ品」の処理に頭を悩ませていました。そこで竹洞さん達が立ち上がり、ハンパ品の有効活用を進める研究会を発足。試行錯誤の末、製品化まで2年かけて完成させたのが「にんにくボール」でした。このような努力が実り、平成14年には、この活

動が「農山漁村女性チャレンジ活動表彰農林水産省経営局長賞」を受賞しています。

「牛肉まつり」など、地元イベントに協力したり、九州で実演販売をしたりとネットワークも軽く、「町の方々がいろいろ声をかけてくれるから、うれしくてね」と竹洞さん。これも、「カマラードの家」が五戸町の人たちに信頼されている証です。メンバー全員が地域コミュニティを盛り立てようという意識が高いために、良好な信頼・協力関係が築かれています。

これからの活動について竹洞さんは、「後継者の育成」と「この活動を通じて地元の高齢者の交流と雇用の創出」を推進していきたいそうです。

「地域の繋がりが点と点から、点を線で結ぶ活動へと発展し、私自身の農業経営にもプラスとなりました。友達が増えて、毎日が楽しい。家族も私達の活動を応援してくれるから、がんばれるの。」と満面笑みの竹洞さん。

実は、倉石地区に「カマラードの家」の専用の作業場があります。竹洞さんいわく、「好きな時間に作業して好きな時間に帰ることができる」のだそうです。

笑顔と優しさあふれる「気の合う仲間達の家」。これからの“かっちゃん達”のコミュニティ活動に期待し、応援していきたいものです。



『あすの地域社会を築く住民活動賞』
総務庁が全国のコミュニティ活動の優秀な実践団体に贈っている賞。のちに「ふるさとづくり賞」と改称された。

『カマラード』
スペイン語で「気の合う仲間」という意味

[カマラードの家]の商品は、五戸町夢の森ハイランドや道の駅で購入できます。webサイトからでもOKです。
www.camarado-house.com
TEL 0178-77-3929

温泉場の活気を取り戻したい 下風呂温泉女将の会

【風間浦村】



下北半島風間浦村にある下風呂温泉は、「漁り火の見える温泉」として知られています。

「温かい人情と海の料理、そして温泉が自慢なんです。女将さんたちはまとまりがあるしね」と話してくれるのは、かどや旅館の女将であり、下風呂温泉女将の会会長でもある角谷マサ子さん（58）。

会が発足してから今年で11年。県内にある女将の会の総会に参加して、「よし、わんどもやんねばまいね。下風呂を元気にしていこう」という想いだったそうです。旅館とホテルの女将さんたち11名が集まったの結成でした。

当初、村のイベントに参加する程度でした。しかし、全国的に古くからの温泉地が低迷しているなか、下風呂温泉も例外ではなく、3年ほど前から女将さんたちの意識が危機感へと変わっていきました。

ひとりひとりがどんなことでもいいから「行動」をしていこうと取り組み出しています。例えば「漁り火見学」や「オリジナルTシャツ」の作成、地域を紹介したホームページを開設して情報を発信するなど、アイデアがいっぱいです。

「それぞれみんなが能力を出し合えば、それが活性化につながると思うんです」と話すのは佐々木旅館の佐々木すみえさん（46）。「旅館だけが頑張ってもダメ。地元の人たちが連携し協力し合い、地域ぐるみで元気になる」と話すのはまるほん旅館の長谷雅恵さん（46）。

そしてこの4月、温泉街に完成したのが「鉄道アーチ橋メモリアルロード」。戦前に大畑から大間まで鉄道を開通させようとしたのですが、戦争の激化と資材、人員不足によって中断して残ったままのアーチ橋をメモリアルロードとして整備したのです。途中には駅舎を模した休憩所も設置。

「その休憩所には、温泉を引いた足湯もできました。

せっかくメモリアルロードを造って頂いたのですから、これを地元の手で守っていきたいですね。これからはお客さんにも退屈させずに済みますし、地域ぐるみで活用していきたい」と角谷会長さん。

「私たち女将の会の結束力は、どこにも負けないと思っています。もうひとつの自慢はみんな美人で明るいことではないでしょうか」と佐々木すみえさんは朗らか。

下風呂温泉が地図に記されて今年では550年という節目に合わせ、今下風呂温泉女将の会では、今年7月から半年間にわたり、800円で3カ所入浴できる「遊（ゆ）めぐり」手形を発行。地域の良さを積極的にPRしていくのだそうです。

「夕方ともなると、下駄の音が街なかで響いて風情がありましたね。そんなひと頃あった活気をもう一度取り戻したいんです」と角谷会長は力を込めて言います。



[下風呂温泉女将の会]
の女将のつぶやきweb
サイトは
<http://www2.ocn.ne.jp/~maruhon/tubuyaki.html>



助成金による
事業を展開した
団体です



滝沢ひまわり会 [十和田市] (十和田市などから助成)

設立：平成15年

目的：高齢者を支援する活動

事業：高齢者と児童のふれあい学習

活動：高齢者が小学校を借りて子どもたちと一緒にグランドゴルフをしたり、小学生に「むかし遊び」を教えたりして、高齢者の健康と生きがいを啓発・実践した。同時に、学校行事に参加することで、高齢者が子どもたちと交流し、高齢者の知恵や優しさを表現することができた。

効果：年間22回の活動の中で、参加する高齢者が増え、グランドゴルフを楽しみにする会員が増えた。

(代表・力石堅嗣 / 会員数・30名)



めんだり一座 [中泊町] (ろうきんから助成)

設立：平成6年(高齢者支援のボランティアグループとして発足。今年度から人形劇のみのグループとして再結成)

目的：独り暮らし老人を元気づける活動

事業：高齢者施設へ人形劇で慰問

活動：「めんだり」は「前掛け(エプロン)」

のこと。農家の主婦たちが農閑期を利用してお揃いのピンクのエプロンで活動。オリジナルの人形劇で施設のお年寄りに笑いをプレゼントしてきた。助成金のほとんどは慰問の時の交通費に費やした。

(代表・葛西美奈子 / 会員数・20名)



青森音楽療法研究会 [青森市] (青い森ファンドから助成)

設立：平成10年

目的：音楽療法についての研究・普及・啓発と、会員相互の情報交換。

事業：音楽療法セミナーの開催と実践研究

活動：セミナーを開催するごとに会員が増え、音楽療法に対する可能性がふくらんだ。鬱病予防にも効果があるという認識があり、医師や保護者とのコミュニケーションもとれ、実践の現場が広がった。学会で認定された音楽療法士の有資格者会員も増え、音楽療法の認知度も高まった。

(会長・佐々木純子 / 会員数・80名)



はしかみユニホккеークラブ [階上町](ろうきんから助成)

設立：平成11年

助成金支援情報

コミュニティケア活動資金助成プログラム
・テーマ：「暮らしのなかの介護と医療」「暮らしのなかのつながりづくり」
・助成額：一律30万円(10団体)
・締切り日 2005年8月15日
・助成元：コミュニティケア活動支援センター
・<http://homepage2.nifty.com/comcare/josei/2005.htm>
循環型社会の形成に向けたエコ・コミュニティ事業(循環型社会形成実証事業)

・助成金額：1事業あたりおおむね100万円から1000万円程度
・締切り日：2005年7月22日
・助成元：環境省
・<http://www.env.go.jp/press/press.php3?serial=6108>
第16回「緑のデザイン賞」
・助成金額：緑化助成：800万円以内
・締切り日：2005年8月5日
・助成元：財団法人都市緑化基金 / 第一生命保

目的：小学生へのユニホッケーの振興

事業：ユニホッケー人口の拡大

活動：ユニホッケーは、子どもと大人の混成でゲームが可能で、家族全員で楽しめることから、町ぐるみでユニホッケーを推奨・振興している。同クラブでは、県大会でも上位に位置し、全国大会で優勝するなど、活躍が著しい。助成金は、ユニホームの新調に使い、子どもたちの試合意欲を高めることに役立っていた。

効果：町内のユニホッケー人口が100人を超えてますます盛んになってきている。

(会長・小坂正年/会員・50人)



杉の子図書館 [碓ヶ関村]
(ろうきんから助成)

設立：平成8年

目的：子どもが自由に本に親しめる場の提供(私設図書館の開放)

事業：子どもたちに読書の機会(閲覧や貸しだし)を提供。図書館日より「杉の子タイムス」発行。子ども文庫の立ち上げ。

活動：身近なところに図書館があると、子どもたちがやってきて、実によく本を読む。子どもの読書に役立っていると実感している。

効果：蔵書が1300部となり、それを参考に児童書を購入する親が出てきた。県内外に同様の文庫ができ、子どもたちの読書熱の報告が来るようになった。貴重な資料を収蔵した文献文庫を平成16年に新設し、児童書研究の利用者が増えた。

(代表・田口昭子/運営者2名)

どさいくの? コミュニティ

文・さとうひろゆき

(外が兵町政策推進課調整監)

故・須郷信夫氏、石崎宜雄氏、佐藤覚治氏、鹿内博氏、篠田伸夫氏に捧ぐ

今や、1兆円産業といわれているパチンコ業界。それを支える主役は「台」であるが、これまで何と多くの機種が生まれては消え、輪廻転生を繰り返していることか。1台20万円前後もする最新機種でも、客付き加減によりわずか2~3カ月足らずで姿を消す。とにかく最近では、客が付こうが付くまいが新しい台が続々と生産され、そして消えて行く。

これは、最近の役所機構によく似ている。行政改革なのだろうが、暗記できないような長い課名もある。ようやく覚えても、翌年には新たな課名になったり場所が変わったり、無くなっていたりする。

そういえば、「あすの青森県を創る運動協会(会長：石崎宜雄)」が5月11日に解散した。昭和31年7月、「青森県新生活協議会」として設立されたこの団体は、昭和50年代から県社会教育課に事務局を置き、県の補助を受けながら社会教育や生涯学習推進の協働団体として多様な活動を展開してきた。

「コミュニティ」という言葉は今こそメジャーになってきたが、本県でこの言葉の具現化に最初に取り組んだのが同協議会である。やがて、昭和52年のあすなる国体と前後して、当時の県地方課と協働する。

それは、自治省派遣のオモロイ課長・篠田伸夫氏(前全国町村議会事務総長)がいたからだ。同氏率いる地方課のほか、国体の県民運動事務局の課なども加わり、同協議会は県教委と知事部局の関係課のほか県内町村や関係団体とのネットワークづくりの窓口的役割を担った。

これが、県コミュニティ行政推進体制のハシリである。「コミュニティ」とは、直訳すると「地域社会」などという実にアベケ無い意味だが、当時は「あすましい地域社会づくり」や「潤いとまとまりのある地域社会づくり」と定義して県下に呼びかけた。

コミュニティづくりの推進は、結果が見えづらく、人や地域や団体相手に、根気と長い時を要する地味な業務である。

ともあれ、同協会は解散した。しかしこれから先、コミュニティづくりは、どうするのかなどすんだべの?。



解散記念誌

シリーズ
・Comスレスレ日記

険相互会社

・ <http://www.urban-green.or.jp/>
第9回ボランティア・スピリット賞

・ 助成金額：全国賞/10万円のボランティア活動支援金と表彰状、メダル他

・ 締切り日：2005年9月9日

・ 助成元：ジブラルタ生命保険株式会社/ブルデンシャル生命保険株式会社

・ <http://www.vspirit.jp/>

第3回読売ブルデンシャル福祉文化賞

・ 助成金額：福祉文化賞3件(正賞と活動支援金各100万円)、奨励賞5件程度(同10万円)

・ 締切り日：2005年9月30日

・ 助成元：読売新聞社、読売光と愛の事業団

・ <http://www.yomiuri.co.jp/hikari/>

「新しい世紀の社会づくり」活動助成

・ 助成金額：1件当り100万円が限度

・ 締切り日：2005年7月31日

・ 助成元：財団法人 ユニベル財団

・ <http://www.univers.or.jp/univers.html>

市民活動 NEWS

参加しよう
体験しよう



イベント情報

ピアカウンセリング体験会

ピアカウンセリングは障害をもっている仲間同士で、悩みや気持ちを聴きあい、自分自身に自信をもつためのプログラムです。様々な環境の人と知り合えたり、お互いに学びあえる良い機会となります。将来、ピアカウンセラーとして働きたい人、障害をもっている人なら、どなたでも参加できます。

- ・主催 / 青森市障害者生活支援センター ぽっと
- ・2ヶ月に1回(奇数月) 毎土曜日 午後2時～3時半
- ・青森市総合福祉センター
- ・参加料 / 無料
- ・申し込み / 青森市障害者生活支援センター ぽっと 青森市中央3-13-1 青森市総合福祉センター階
TEL 017-721-5481

キッズアート・ワールドあおもり 2005

『キッズアート・ワールドあおもり』は、子どもたちが芸術文化に触れる機会を増やし、これを進めていくことを

目的として、2000年から毎年開催されているアートプロジェクトです。これまで青森県が主催してきましたが、昨年から市民の手で運営されるようになり、今年も、夏休み期間を活用して青森市内で開催されます。

今年は、トヨタ財団やNTTドコモから助成を受け、6種類のメニューを子どもたちに楽しんでもらうことになりました。

メニューは6種類。野焼きイメージ造形(粘土) ジャズ未来鼓動(打楽器音楽) 縄文イメージフォト(写真) 張り子あかり造形(ねぶた) 藍キャッチTシャツ(藍染め) 墨アアイコン戯作(墨絵)

それぞれ制作場所(青森市内の小学校・国際芸術センター青森・主催者事務局など)や日程が異なるので、事務局に問い合わせを。

- ・事務局(主催) / あおもりNPOサポートセンター TEL017-776-9002
- ・申し込み / 7月15日まで
- ・参加料 / 障害保険料500円



山菜採りは？

山菜採りは 目先の収穫より、安全第一！

山菜採りが盛んな季節となりました。山菜採りに出掛ける方は、山岳遭難に注意しましょう。

山での遭難は、残された家族の悲劇はもちろんのこと、地域の方々にも大きな迷惑をかけることになります。次のことに気をつけて安全で楽しい山菜採りを心がけましょう。

家族等に行き先、帰宅予定時間、車の駐車予定場所を連絡して出掛けましょう。

慣れた山でも、決して油断しないで単独での入山はやめましょう。

目先の収穫より安全が第一です。天気予報を確認し、自分の体力、体調にあった行動を心がけ、無理しないようにしましょう。

迷ったなと感じたら歩き回らず、大木の陰や岩陰で風を防ぎ、火を焚くな



どして救助隊の助けを待ちましょう。特に、日没後の行動は危険です。

万一来るに備えて次のものを用意して山に入りましょう。

非常食・雨具・薬・ライター・鏡(反射光により自分の位置を知らせることができます。)携帯ラジオ・笛・発煙筒・方位磁石・携帯電話

県からの お知らせ



(藍染めのみTシャツ代負担)

- ・対象 / おおむね小学生
保護者同伴で参加のこと
- ・サポーター / このイベントをサポートしてくれるボランティアも募集中。

NPO法人岩木山自然学校のイベント

- ・子どもパークレンジャー(白神山地での自然体験)
マタギのキャンプ / 7月24日~25日
ブナの森トレイル整備 / 10月29日
- ・岩木川子ども自然体験学習会(岩木川の環境を考える活動)
外来魚駆除活動キャンプ / 7月28日~29日
ヨシ船づくりカヌーキャンプ / 8月8日~9日
- ・青森県横断子ども冒険キャンプ / 8月15日~23日(太平洋-八甲田山登山-十和田湖-善光寺平-白神山-岩木山登山-日本海)
- ・問い合わせ・申込み / NPO法人岩木山自然学校 TEL 0172-83-2670

NPO法人音楽ネット青森のイベント

- ・第12回コンサート「小林仁ピアノリサイタル」 共演・相馬泉美

日時 / 8月11日 午後6時30分

ところ / ばるるプラザ青森

全席自由 2000円

演奏曲目 / ショパン・ポロネーズ、
マズルカ、ノクターンほか
ブラームス・シャコンヌ 2台のピアノ
によるブラームス・ワルツほか

- ・問い合わせ / NPO法人音楽ネット青森 TEL 017-726-8855

ボランティア情報

輝くあすをきみの手で『2005年体験ボランティア』

いつでも・どこでも・誰でも・気軽に・そして楽しく参加できる体験学習によるボランティア活動を通して、私たちの暮らしている地域社会への関心を高め、社会参加の意義や自己実現などを学びます。

- ・主催 / 青森市社会福祉協議会
- ・日時 / 平成17年7月より通年
- ・対象 / ボランティア活動できる方ならどなたでも
- ・内容 / 高齢者サポート 障害児・者サポート 児童サポート 保健医療関係 その他のボランティア

- ・申し込み / 青森市社会福祉協議会

[体験ボランティア]係

TEL 017-723-1340

ボランティア・市民活動メッセージコンテスト

今年、10月29日開催される「第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと」にむけて、「私のボランティア・市民活動とコミュニティ」をテーマのメッセージを募集しています。

“まちづくり”に関わって、自ら行っているボランティア・市民活動を通して感じたことや学んだことをメッセージと活動報告にまとめ、お送りください。

・メッセージ200字程度・活動報告4000字程度・活動資料・応募票をすべて、下記へ送付して下さい。

千代田区霞が関3-3-2 全国社会福祉協議会・全国ボランティア活動振興センター「ボランティア・市民活動メッセージコンクール」係

優秀作品には10万円の活動奨励金を

〆切 / 7月31日

詳細は

<http://www3.shakyo.or.jp/cdvc/volunteer/festival/index.html>

ボランティア

ボランティア募集案内

平成17年10月15日(金)~17日(月)の3日間の日程で、本県において「第2回世界自然遺産会議」が開催されます。実行委員会事務局では、国際会議(10月15日 弘前市民会館での開会式、分科会)運営を手伝ってくださるボランティアを募集しています。

ボランティア業務

- 1 受付補助
- 2 会場内・会場外の整理・誘導補助
- 3 その他

17年7月31日まで(ただし定員となり次第締め切らせていただきます。)

募集人員 / 15名程度

応募資格 / ボランティア活動に理解のある方で、開会式当日(10月15日)お手伝いできる、個人または企業、各種団体、学校及びグループなど。

ただし、事前説明会(9月を予定)に参加していただくこととなります。



白神山地 2005
世界自然
遺産会議

交通費等 / 会場(弘前市民会館)までの交通費、日当等の支給はありません。なお、昼食は提供いたします。

資料請求・お問い合わせ

第2回世界自然遺産会議実行委員会事務局

直通電話017(734)9255

E-mail sicwnhqu@jomon.ne.jp

URL <http://www.sicwnh.com/>

講師派遣

NPOに専門講師を派遣します!

県では、地域で活動するNPOのマネジメント力アップのお手伝いをする専門講師派遣事業を行います。NPOは、派遣に係る会場費を負担するだけで、専門講師によるお話を直接聞くことができます。実務などにおける課題の解決にぜひご活用ください。(派遣には条件があります。詳しくは、本事業を受託しているNPO推進青森会議にお問い合わせください。)

派遣に応じる専門分野

会計、税務、資金調達、広報、事業企画力、事業構築、組織・運営、組織内コミュニケーション、人材確保、ミッション(社会的使命) IT、マーケティング、リスクマネジメント、労務管理

【お問い合わせ・お申し込み先】

NPO法人NPO推進青森会議

〒030-0862 青森市古川1-16-7

のむらビル2階

TEL 017-774-5595 / FAX 017-774-5596

青森県の市民活動団体 [ボランティア & NPO]



シニアITサポート

社会教育推進

連絡先 / 十和田市西二十三番町10-3 TEL 0176-25-3259

目的：十和田市内の高齢者が情報格差をなくすために、IT技術を学んでいる。
活動：受講生の中から指導員を養成している。ゆっくりと楽しみながらの講座なので、評判がよい。デジカメ撮影旅行を年に2回実施し、作品を文化祭に出品している。十和田市から、コミュニティビジネス支援として助成されている。



はちのへ子ども劇場

児童健全育成

連絡先 / 八戸市小中野4-3-55 TEL 0178-47-9251

目的：地域子どもたちに鑑賞活動を体験させ、感動と希望を与え、子どもたちの健全育成をめざしている。活動：「創作太鼓の会」を鑑賞したあと、直接太鼓の指導を受けた。「手づくり絵本の会」を開催し、地域のお母さんと子ども対象で実施し、初めての手づくり絵本体験で高い評価を得た。



はまなすラインボランティア

高齢者支援

連絡先 / 今別町字中沢165-12 TEL 0174-36-2118

目的：高齢者への給食サービスや、老人ホームの祭や旅行の介助など、高齢者サポートボランティアを目的としている。活動：寝月地区にある宿泊施設「海峡の家」で、老人ホームの入所者と共に過ごす時、食事の世話やカラオケの相手など、一緒に楽しめるボランティアに充実感を味わっている。



ケア付青森ねぶた“じょっぱり隊”

障害者支援

連絡先 / 平内町小湊字薬師堂63-23 清風荘 TEL 017-755-5531

目的：高齢者や障害者が車椅子でねぶた祭りに参加することをケアし、社会参加への意欲を持ってもらうことを目的として組織。活動：毎年、菱友会のねぶたが受け入れて、今年で10年目。車椅子の参加者30人にボランティア200人でサポートする。参加費2000円、学生は無料。



NPO法人
アニマル・サポート青森
(動物愛護と適正飼養)

《青森市》
017-744-2261

NPO法人
GEMBU
(森づくり)

《むつ市》
0175-22-4641

NPO法人
コモンウィンドむつ
(市民風車)

《むつ市》
0175-23-0246

NPO法人
スポネット弘前
(総合型地域スポーツクラブ)

《弘前市》
0172-34-0270



NPO法人青森県日本文化を伝承する会

文化事業推進

連絡先 / 青森市花園1-25-8 TEL 017-744-3912

目的：国内外の人々に対して、青森県内外にある伝統文化を広く人々に伝え、継承する事業を行い、日本文化の振興と社会全体の利益を図ること 活動：京都からプロの染色家を招き、夏帯やしんげん袋をつくる会を開催。小中学生と保護者が一緒に楽しむお茶の集いを開催し、日本文化を学び楽しんでいる。



NPO法人あおもりののちの電話

社会福祉

連絡先 / 弘前市大字袋町1-1 TEL0172-38-4343

目的：精神的危機に直面し助けと励ましを求めている人々に、ボランティア電話相談員による対話の場を提供し、自らの力で生きる勇気を見出し続けるよう援助すること。活動：1年間で5000件の電話相談を受けつけ。年中無休で昼12時から夜9時まで対応している。実働サポーター会員は50人。相談電話は0172-33-7830



NPO法人つがる夢庭志仙会

農村維持

連絡先 / つがる市柏大字下古川字絹川111-3 TEL 0173-34-5435

目的：地域住民に対して、農村景観の維持発展・地域活性化と、高齢者の福祉の増進を図り、地域福祉の向上と地域社会の利益を考えること。活動：老人ホームの庭ボランティアでつくった小さい城「はなぶさ城」を眺めながらのお茶会を開催。老人会やグループホームへ慰問してのお茶会などで地域福祉を進めている。



NPO法人トゥーリーフ

IT教育

連絡先 / むつ市新町10-30 TEL 0175-23-8327

目的：子供や高齢者及び障害者等すべての方々に対して、パソコンの利便性や楽しさを伝え、就職活動に役立つように支援し、またパソコンを通して情報交換や交流を深める場を提供すること。活動：「Word」を使ったうちわづくり教室を開催。7月末にはパソコンゲーム大会を開催予定。秋には、障害者向けのパソコン教室も。



《百石町》

0178-50-8123



0173-35-1767



0178-22-1507



《青森市》
NPO法人
三内丸山縄文発信の会
(三内丸山憲章を奨める)

017-773-3477



《五所川原市》
NPO法人
スマイルシップ
(笑顔の理美容サビレ)

〔ご近所の元気〕

(ソーシャルキャピタル)

事始め 1

「ソーシャル・キャピタル」といっても、まだまだ認知度が低い言葉です。しかし、2003年、内閣府国民生活局が発表した「豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」という調査報告書は、日本におけるソーシャル・キャピタルのあり方を探ったものです。いま、市民活動を考えるために少しソーシャルキャピタルについて考えてみようと思います。

<http://www.npo-homepage.go.jp/report/h14/sc/honbun.html>

ソーシャル・キャピタルってなに？

ソーシャル・キャピタル(以下、SC)は、直訳すると「社会資本」という意味合いになります。この言葉を最初に使って学説を唱えたのは、20世紀初頭の頃、アメリカの教育学者(L.J)ハニファンで、「善意」「仲間意識」「相互の共感」「社会的交流」のことをSCと呼びました。学校に対する地域社会の関与が大切であることを説明するために、この言葉を用いました。SC(社会資本)という、社会を支えているものは、人の心だといっているのです。

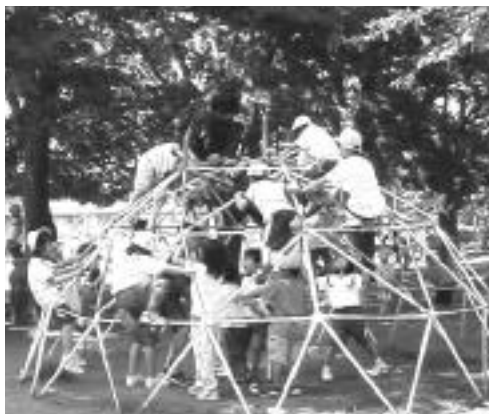
ハニファンの学説から80年後、アメリカの政治学者R.Dパットナムが、「哲学する民主主義」という本の中で、SCとは「信頼」「規範」「ネットワーク」という社会制度の特徴であり、これが社会の効率を高めるといいました。

日本の社会資本は、ハード？

日本語で社会資本というと、道路、空港、港湾などのハードのインフラ(社会基盤)を指すのが普通です。しかし日本では、アメリカで唱えられているSCの意味合いを指す言葉がありません。しかし、ボランティアやNPOなど市民活動を支え、活性化させている要素が、パットナムが唱えたSCではないかと注目が集まっているのです。

SCIは「ご近所の元気」

向こう三軒両隣、いわゆるご近所づきあい、これがスムーズだと生活環境とし



て快適です。「信頼」「規範」「ネットワーク」がうまくいっている、つまりご近所が元気で生き生きしているということです。ご近所づきあいの些細なことには無償の行為で済まされます。ギブアンドテイクの関係性です。

この意識をちょっと広げると、地域コミュニティとなるわけですね。

この、地域コミュニティを支えているボランティア意識を調査した結果が、内閣府の「豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」なのです。

ボランティア活動と犯罪発生率

2001年、総務省が調査した3つの調査結果がちょっと驚きです。

各県におけるボランティア活動参加者率と、刑法犯認知件数・完全失業率・出生率の関係性を見ると、ボランティア活動が活発な県ほど、犯罪が少なく、失業率が低く(失業者が少なく)、出生率が高いという結果が出たのです。

つまり、自発的な市民活動はSCパワーを強め、「活力ある地域」「安心・安全な地域」を創っていくということなのです。

十和田市はSCの先進地！

十和田市は、かつて「暴走族の本拠がある街」でした。市は、2001年に暴走族根絶のための条例を制定しました。これに伴い、バイク店や衣料店、ガソリンスタンド経営者たちが申し合わせをし、暴走族には販売しないこと、駐車場管理者は暴走族が集合しないような手だてを講じることで、暴走族は解散してしまいました。「自分たちの街は自分たちで守る(創る)」という意識が高い街として、全国的に注目されました。

あなたの住む街は、如何でしょう。SCは蓄積されていますか？次号では、SCの中身について考えてみます。

編集後記

「ブリジン」第1号をお届け致します。人と人、地域と地域、セクターとセクター、そして多様な価値観をブリッジング(橋渡し)することを目的として、「市民社会」という認識が広がってくれたらという期待を込め、「ブリジン/橋掛け(Bridging)」、というタイトルとしました。

今日的なソーシャルキャピタル(社会資源)論でいけば「橋掛け」という考え方は、コーディネーター(調整役)やファシリテーター(意見の引き出し役&まとめ役)という役割を担うことであり、マネジメントという意味合いもあります。その道の専門家をつなぎ合わせながら、その地域にあった、その領域にふさわしい、新しい考え方や方法をつくり、プランニングしていくことが、これからの地域づくりやマネジメントには必要です。それは、決して権威や金で片付けられないことです。

地域とそこに暮らす人たちの幸福感を築いていくために、コミュニケーションを大切にしながら、たがいに理解し合い、どうするかを考え、協働しあい行動を起こすこと、それが今日的なソーシャルキャピタルだと思います。

今号は、「コミュニティ」というものを意識して編集を組み立てました。地域コミュニティの仕掛人、コミュニティビジネス、コミュニティ活動の現在進行形など、ボランティア組織やNPOの基盤となっている部分に着目してみました。



発行 青森県環境生活部県民生活政策課

編集 NPO法人

あおりNPOサポートセンター

編集協力 NPO法人NPO推進青森会議

発行日 2005年7月7日

本冊子は、1万部発行・1部単価税込56円10銭で制作しています。